

都市再生整備計画 モニタリングシート
長野駅周辺地区

平成31年3月

長野県長野市

様式3 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	長野市		地区名	長野駅周辺地区		面積	137.9	
交付期間	平成27年度～平成31年度		事後評価実施予定時期	平成31年度	モニタリング実施時期	平成30年度		交付対象事業費	1,478,800,000	国費率	4/10
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施済み、実施中、実施予定の事業	基幹事業	事業名 道路(東通り線交差点改良、長野西300号線交差点改良)、公園(近隣公園)、地域生活基盤施設(長野駅東口バス待機場等整備、多目的広場整備、耐震性貯水槽、防災備蓄倉庫、長野駅案内サイン再整備)、高質空間形成施設(街路灯整備、せせらぎ歩道整備、駅南幹線歩道整備)、高次都市施設(地域交流センター整備)				事業進捗の状況(順調か、遅れているか) 事業は概ね計画どおりに進捗している。				
		提案事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	—		—			—			
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(長野駅案内サイン再整備)		広域交通の玄関口として機能する長野駅の東口側では土地区画整理事業が終盤を迎え道路・公園などの整備が進んだことから、多言語表記やピクトサインを用いた分かりやすい案内サインを設置し「歩いて楽しめるまちづくり」を目指すため追加			影響なし			
		提案事業	—		—			—			
	交付期間の変更	当初	平成27年度～30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			影響なし			
		変更	平成27年度～31年度								

	指標		単位	従前値		目標値		モニタリング		目標		総合所見	今後の対応方針
	指標1	指標2		基準年度	目標年度	計測年度	達成見込み						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	バス待機場利用台数	台/月	2,582	H26	2,750	H31	3,512	H30	あり なし	●	安全で快適な都市基盤整備が進み、長野駅から周辺施設へのアクセスが向上したため、バスの利用台数の増に繋がった。	各事業を推進し、モニタリングを継続する。
	指標2	歩行者数	人/日	3,742	H26	3,800	H31	4,258	H30	あり なし	●	安全で快適な都市基盤整備が進み、長野駅から周辺施設へのアクセスが向上したため、歩行者数の増に繋がった。	各事業を推進し、モニタリングを継続する。
	指標3	地域交流センターの講座受講者数	人/年	3,892	H26	4,000	H31	—	—	あり なし	●	現在、地域交流センターが建築中であるため、評価できない。	施設の完成に向け事業を推進する。
	指標4	消防活動困難区域の減少	%	59.2	H26	51.6	H31	53.5	H30	あり なし	●	街区の整備による狭隘道路・密集家屋の解消と計画的な耐震性貯水槽の設置により、消防活動困難区域は減少している。	各事業を推進し、目標値を達成させる。
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		モニタリング		目標		総合所見	今後の対応方針
	その他の数値指標1									達成見込み			
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価				実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング			歩行者交通量調査等のモニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない				● 計画期間中は、モニタリングの手法を用いて定期的に継続事業の達成の度合いを確認していく。	
	住民参加プロセス			長野駅東口まちづくり対策連絡協議会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない				● 街づくり事業の具体化のため、テーマごとの研究会にて検討・協議を継続していく。 (具体的な活動は住民主体で実施している。)	
持続的なまちづくり体制の構築			長野駅東口まちづくり対策連絡協議会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない				● より多くの住民の意見を反映させ、実施可能な街づくりを協議・検討しながら推進している。(具体的な活動は住民主体で実施している。)		
6)モニタリングの所見	総合所見		順調	● ・事業は概ね計画どおりに進捗している。				今後の事業の改善点					
			要改善										

まちづくり交付金 モニタリングシート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 効果発現要因の整理

(4) モニタリングの所見

- 添付様式5-① まちの課題の変化
- 添付様式5-② 総合所見・今後の事業の改善点

(5) モニタリング原案の公表

- 添付様式6 モニタリング原案の公表

(6) 有識者からの意見聴取

- 添付様式7 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		地域交流センターの講座受講者数 3,000人	地域交流センターの講座受講者数 4,000人	当初、単独で地域交流センターを計画していたが、周辺施設を含め配置計画の再検討を行った。支所等との合築による複合施設として整備することで利用定員が増加するため目標値を変更した。
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業											(単位:百万円)		
事業	事業箇所名	当初計画		モニタリング時		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	モニタリング時の状況			今後の事業見込み		
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			未着手	事業中	完成			
道路	東通り交差点改良	30	L=71m	52	L=78m	公安委員会及び道路管理者との協議に伴い、改良区間と施工時間帯の見直し、事業期間を変更し事業費を増額	影響なし		●		H31完成に向け事業推進		
道路	長野西300号線交差点改良	60	L=94m	60	L=94m	実施設計の結果、事業期間を変更	影響なし			●	H30完成		
公園	近隣公園	323	A=8,810.5㎡	362	A=8,810.5㎡	地元住民が参加したワークショップにて公園の施設を検討し、「まちなかの豊かなみどりのなかで、「遊び」、「憩い」、「ふれあい」ができる公園」をテーマに実施設計した結果、事業費を増額し事業期間を変更	影響なし		●		H31.4完成予定		
地域生活基盤施設(広場)	長野駅東口バス待機所等整備	24	300㎡	25.2	300㎡	地元と協議・検討を行った結果、利用者の利便性向上を図るため事業費を増加	影響なし			●	H30完成		
地域生活基盤施設(広場)	多目的広場整備	65	A=4,290㎡	65	A=4,290㎡	近隣公園の整備計画の変更併せて事業期間を変更	影響なし		●		H31.4完成予定		

事業	事業箇所名	当初計画		モニタリング時		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	モニタリング時の状況			今後の事業見込み
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			未着手	事業中	完成	
地域生活基盤 施設(地域防災 施設)	耐震性貯水槽	27	60㎡級貯水槽3基	24.9	60㎡級貯水槽2基 40㎡級貯水槽1基	事業内容の精査及び入札差金により事業費の減額	影響なし		●		H31完成に向け事業推進
地域生活基盤 施設(地域防災 施設)	防災備蓄倉庫	15	1棟	35.7	1棟	近隣公園のワークショップにて中心市街地の防災拠点としての機能を併せ持ち、また良好な住環境に配慮した倉庫として実施設計した結果、事業費を増額し事業期間を変更	影響なし			●	H29完成
地域生活基盤 施設(情報板)	長野駅案内サイン再整備事業			5.8	4基	広域交通の玄関口として機能する長野駅の東口側では土地区画整理事業が終盤を迎え道路・公園などの整備が進んだことから、多言語表記やビクトサインを用いた分かりやすい案内サインを設置し「歩いて楽しめるまちづくり」を目指すため追加	影響なし	●			H31から事業着手
高質空間形成 施設	街路灯	165	61基	127.7	60基	事業内容の精査及び入札差金により事業費の減額と事業期間を変更	影響なし		●		H31完成に向け事業推進
高質空間形成 施設	せせらぎ歩道	212.3	L=536m	172	L=536m	事業内容の精査及び入札差金により事業費の減額と事業期間を変更	影響なし		●		H31完成に向け事業推進
高質空間形成 施設	駅南幹線歩道	16.2	L=370m	16.3	L=370m	道路築造工事との整合により事業期間を変更	影響なし			●	H29完成
高次都市施設	地域交流センター	468.7	A=1,000 ㎡	532.2	A=1,101.2 ㎡	当初、単独の地域交流センターを計画していた。しかし周辺施設含めでの配置計画で再検討し、支所との合築による複合施設として整備をする事で事業費の増額と事業期間を変更	施設配置を検討した結果、利用定員が増加するため指標3の数値目標を3,000人から4,000人に修正		●		H31完成に向け事業推進

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		モニタリング時		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	モニタリング時の状況			今後の事業見込み
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			未着手	事業中	完成	

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	モニタリング時	当初計画	モニタリング時		
土地区画整理事業(道路区画)		長野駅周辺第二地区	4,957.9	4,141.5	H5~H30	H5~H31	土地区画整理事業に併せて施行しており幹線道路の整備により交通結節点等の都市機能強化に貢献し指標の目標に寄与している。	社会資本総合整備計画(長野駅周辺の安心・安全で快適なまちへの再生)に位置付け
土地区画整理事業(都市再生区画)		長野駅周辺第二地区	761.6	897.0	H5~H29	H5~H30	土地区画整理事業に併せて施行しており、狭隘道路、密集家屋の解消と耐震性貯水槽を設置する街区公園の整備により指標の目標に寄与している。	社会資本総合整備計画(長野駅周辺のすみたくなるまちへの再生)に位置付け
まちづくりアドバイザー派遣			2.0	2.0	H18~H30	H18~H30	近年利用実績は少ないが、住民主体の活動を支援する制度として、広く認知されている。H31以降も実施を検討する。	
まちづくり活動支援			0.5	0.5	H18~H30	H18~H30	住民主体の活動を支援する制度として、活用されている。H31以降も実施を検討する。	
ユメリアまつり					H10~	H10~	地区内外の住民との交流や世代間の交流の場として、また、文化活動の発表の場として定着している。	
東口フェスティバル					H11~	H11~	地区内外の住民との交流や世代間の交流の場として、また、文化活動の発表の場として定着している。	
芹田支所整備				195.7		H28~H31	H31完成予定	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と モニタリング値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		モニタリング (エ)		現段階での 目標達成 見込み		総合所見	今後の方針
			基準 年度		基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	実施 年度	実施 年度	あり	なし		
指標1	バス待機場利用台数	台/月			2,582	H26	2,750	H31	3,512	H30	●		モニタリング結果で効果の発現が認められ、施工中の幹線道路が完成すると更に増加が見込まれる。	事業を推進し、効果の確認を継続していく。
指標2	歩行者数	人/日			3,742	H26	3,800	H31	4,258	H30	●		モニタリング結果で効果の発現が認められ、施工中の近隣公園が完成すると更に増加が見込まれる。	事業を推進し、効果の確認を継続していく。
指標3	地域交流センターの講座受講者数	人/年			3,892	H26	4,000	H31	—	—	●		地域交流センターが建築中であることから評価できない。	地域交流センターにかかる事業を推進する。
指標4	消防活動困難区域の減少	%			59.2	H26	51.6	H31	53.5	H30	●		貯水槽の設置に伴い効果を発現している。残工事を実施する事で目標を達成する見込みである。	事業を推進し、効果を確認する。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と モニタリング値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		モニタリング (エ)		本指標を取り 上げる理由	総合所見	今後の方針
			基準 年度		基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	実施 年度	実施 年度			
その他の数値指標1													
その他の数値指標2													
その他の数値指標3													

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

本計画の実施により、新しい街並みが現れ、街づくりに対する地域住民の意識が高まっている。
 ・地域住民参加型のワークショップを開催し、住民と行政の協働による維持管理を考慮した公園等が整備されたことより、愛護会の活動が盛んになり、地域住民の交流が促進された。
 ・長野駅東口街づくり対策連絡協議会内にテーマごとの研究部会を設置、地域住民が街づくりに参画し、関係機関へ提言を行っている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の方針等
バス待機場利用台数	予定どおり実施した	●【実施頻度】月1回 【実施時期】平成26年4月～ 【実施結果】指標について交付期間中の数値を確認することができた。	継続的に実施し数値を確認する。
	予定はなかったが実施した		
歩行者交通量調査	予定どおり実施した	●【実施頻度】年1回(12月の1週目の水曜日) 【実施時期】平成27年12月～ 【実施結果】指標について交付期間中の数値を確認することができた。	継続的に実施し数値を確認する。
	予定はなかったが実施した		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の方針等
長野駅東口まちづくり対策連絡協議会 及び研究部会	予定どおり実施した	●【実施頻度】対連協：年18回程度(計54回) 研究部会：年10回程度(計29回) 【実施時期】平成27年4月～平成30年3月(継続中) 【実施結果】まちづくりの課題に対する研究テーマについて、検討・協議する部会を設置したことにより、まちづくりに対する議論が深まり計画の効果的な進捗が可能となった。	街づくり事業の具体化のため、テーマごとの研究会での検討・協議を継続していく。
	予定はなかったが実施した		
	モニタリング時点では実施していない		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	モニタリング時点では実施していない		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
長野駅東口まちづくり対策連絡協議会 研究部会	予定どおり実施した	●・高質空間形成施設の植栽等について、住民と行政の協働による持続可能な維持管理を踏まえた整備を検討し実施している。 ・土地区画整理区域内の安全パトロールによる危険箇所の洗出しと対策の検討。	長野駅東口まちづくり対策連絡協議会	引き続き、より多くの住民の意見を反映させ、地域の特性を生かした街づくりを推進していく。
	予定はなかったが実施した			
	モニタリング時点では実施していない			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業検討会議	庶務課、企画課、交通政策課、道路課、都市政策課、公園緑地課、市街地整備課、駅周辺整備局、文化芸術課、家庭・地域学びの課、地域活動支援課、高齢者活躍支援課、消防局総務課	年1～2回の定期会議、メール等による随時の情報交換を実施	都市政策課(都市再生整備計画主管課)

添付様式4-② 効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		バス待機場利用台数		歩行者数		地域交流センターの講座受講者数		消防活動困難区域の減少	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	東通り線交差点改良	○	幹線道路整備の進捗により、交通結節点機能が強化され、バス発着便が増となっている。このため、長野駅東口を利用する人が増えている。現在、施工中の幹線道路が完成すると更なる効果の発現が見込まれる。	○	土地区画整理事業の進捗により道路網が整備され、公園等の周辺施設とともに長野駅へのアクセスが向上した。街路灯、せせらぎ歩道、駅南幹線歩道の整備が地区内や長野駅東口を利用する歩行者の安全に寄与している。現在、施工中の近隣公園が完成すると更なる効果の発現が期待される。	—	モニタリング段階で地域交流センターが完成していないので効果を評価することはできない。	—	土地区画整理事業の実施により従前の狭隘な道路と密集家屋が解消され、さらに公園内に耐震性を備えた貯水槽の設置を実施した結果、消防車両等の活動可能域が増大し、消防活動困難区域の縮小が図られた。
	長野西300号線交差点改良	○		○		—			
	近隣公園	—		◎		—			
	長野駅東口バス待機場等整備	◎		◎		—			
	多目的広場整備	◎		◎		—			
	耐震性貯水槽	—		—		—			
	防災備蓄倉庫	—		—		—			
	長野駅案内サイン再整備事業	—		—		—			
	街路灯	—		◎		—			
	せせらぎ歩道	—		◎		—			
駅南幹線歩道	—	◎	—						
地域交流センター整備	—	○	—						
提案事業									
関連事業	土地区画整理事業(道路区画)	◎		◎		—		◎	
	土地区画整理事業(都市再生区画)	◎		◎		—		◎	
	まちづくりアドバイザー派遣	—		—		—		○	
	まちづくり活動支援	—		—		—		○	
	ユメリアまつり	—		○		—		—	
	東口フェスティバル	—		○		—		—	
	芹田支所整備	—		—		—		—	

※指標改善への貢献度
 ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献している。
 ○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献している。
 △：完成直後又は事業開始直後のため、効果の発揮に至っていない。
 ×：事業が完成したが、期待通りの効果を発揮していない。
 —：評価できない。
 [未着手又は事業中のため評価できない、事業と指標とに関係がないので評価できない]

今後の方針等	引き続き、土地区画整理事業を推進するとともに、長野駅を交通結節点としてアクセスの向上を図る。	引き続き、土地区画整理事業を推進するとともに、地区外からの誘客び地区内における歩行者回遊性の向上を図る。	地域交流センターに係る事業の推進と、文化・教育等の拠点としてふさわしい運営方法を策定する。	本計画の各事業を推進する。

(4) モニタリングの所見

添付様式5-① まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	モニタリングの時点で達成されたこと (課題の改善状況)	交付期間中に解決すべき 残された課題	交付期間中に発生した 新たな課題
土地区画整理事業が長期にわたっており一日も早い事業完了が望まれている。	・土地区画整理事業の進捗の目安となる仮換地指定率は、96%を超え、事業が大きく進捗した。	・交渉難航者への対応等の課題を解決し、残りの事業を確実に完成させる。	なし
平成27年の新幹線金沢延伸により長野駅にアクセスする道路交通網の整備が急務となっている。	・土地区画整理事業の進捗の目安となる公共施設整備率は、92%を超え、幹線道路の整備が大きく進捗した。	・公共施設整備は、概成段階となったが、残りの事業を確実に完了させる。	
大規模震災等に備えた防災施設の整備を住民より求められている。	・都市計画道路、区画道路、公園、耐震性貯水槽の整備により、安心・安全な快適な市街地の形成が図られた。	・耐震性貯水槽や公共施設の整備など、残された事業を確実に完成させる。	
住民自治活動の拠点となり、地域コミュニティを活性化させる社会教育施設の整備を市民より求められている。	・地域交流センターの施設建設について、地元住民を交えて設計を協議・検討したことで建築計画が策定できた。	・地域交流センターを早期に完成させ、運営手法等について引続き地元を交えて協議・検討し、地域コミュニティを向上させる。	
長野駅に近接している立地を生かした多彩な施設の集積など都市機能の向上が必要である。	・医療・福祉・商業等の拠点となる都市機能が集積されてきている。	・土地利用の増進を図り、区域内人口の増加につなげ、都市機能の向上を高めていく。	

添付様式5-② 総合所見・今後の事業の改善点

総合所見	今後の事業の改善点		
		具体的項目	内容
順調 ● 計画・事業の進め方の改善が必要	事業の進め方の工夫	なし	
・事業は概ね計画どおりに進捗している。	都市再生整備計画の見直しの必要性	なし	

(5) モニタリング原案の公表

添付様式6 モニタリング原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット					
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見					
-------	--	--	--	--	--

(6) 有識者からの意見聴取

添付様式7 有識者からの意見聴取

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
信州大学工学部 水環境・土木工学科 高瀬達夫准教授 長野県立大学 グローバルマネジメント学部 築山秀夫教授 信州大学工学部 建築学科 梅干野成央准教授	平成31年3月7日	駅周辺整備課 交通政策課 家庭地域・学びの課 消防局 総務課

有識者の意見	<p>都市再生整備計画評価委員会を開催し意見を聞いた。</p> <p>【評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民と行政の協働と言う観点から、住民と共にこの地域だからこそと言う地域性のまちづくりの構想を考えていく事が重要である。 ○防災コミュニティとの観点から、住民と行政の構造的な矛盾の解決方法を検討して欲しい。 ○まちづくりにおいて住民に地域の特性を活かしたまちづくりが出来るような支援体制が必要である。 <p>【評価委員からの質問】</p> <p>Q. 防災備蓄倉庫において収容的な面、管理の面、ソフト面からの住民への対応は、どの様になっているか教えて欲しい。</p>
--------	--